

令和 5 年度

夕張市水道事業会計決算審査報告書

夕張市監査委員

令和5年度決算の審査意見について

地方公営企業法第30条第2項の規定により審査に付された、令和5年度夕張市水道事業会計の決算について審査したので、その結果について次のとおり意見を付して提出する。

(1) 本審査は、夕張市監査基準第4条第1項第11号の規定に準拠し実施した。

(2) 監査等の種類 地方公営企業法第30条第2項に基づく決算審査

(3) 監査等の対象 令和5年度 水道事業会計決算とする。

(4) 監査等の着眼点

審査に付された決算、その他の書類が関係法令に準拠されているか。
また、これらの係数は正確か、また予算の執行状況は適正であるかを着眼点とした。

(5) 監査等の主な実施内容

決算書と関係諸帳簿、その他の証書類との照合を行い、決算値の推移や増減理由、事業の必要性や効率性など決算内容を分析し関係職員から説明を聴取するなどの方法で審査を行った。

(6) 監査等の実施場所及び日程

夕張市監査事務局

令和6年5月15日から令和6年7月31日まで

(7) 監査等の結果

審査した結果、決算その他の関係書類は、関係法令に適合し、かつ適正に作成されており、その係数は誤りがないものと認められた。
なお、審査の詳細及び意見は以下のとおりである。

夕張市水道事業会計決算審査報告書 目次

1. 業務の概要	2
2. 予算の執行状況(1)収益的収支	3
予算の執行状況(2)資本的収支(3)総収支・資金過不足	4
3. 経営成績(損益計算書)	5
経営成績(増減の主なもの)	6
4. 財政状態(貸借対照表)	7～8
事業実績調	9
経営分析表	10
5. まとめ	11

※ 各項目の金額は、予算の執行状況に係るものは消費税込の金額、経営成績及び財政状態に係るものは消費税抜きの金額である。

《水道事業会計》

1. 業務の概要

項 目		令和5年度	令和4年度	比 較	左の率
給水人口(人)		6,334	6,669	△ 335	△ 5.0
普及率(%)		99.5	99.6	△ 0.1	—
総配水量(m ³)		1,083,994	1,067,380	16,614	1.6
有収水量(m ³)		622,431	629,116	△ 6,685	△ 1.1
有収率(%)		57.4	58.9	△ 1.5	—
経営成績	営業収益(円)	213,983,899	182,683,465	31,300,434	17.1
	当年度純利益(円) (△当年度純損失)	△ 50,739,931	△ 54,091,269	3,351,338	48.8
	利益剰余金(円)	0	0	0	—
財政状態	資産(円)	4,647,110,903	4,825,404,815	△ 178,293,912	△ 3.7
	累積資金剰余金(円)	380,553,973	398,665,289	△ 18,111,316	△ 4.5

[給水収益の状況]

(単位：千円、%)

区 分	令和5年度		令和4年度		比 較	左の率	備考(件数)
	金額	割合	金額	割合			
合計(税抜き)	212,658	100.0	181,703	100.0	30,955	17.0	3,806
一般用	209,634	98.6	178,537	98.3	31,097	17.4	3,755
浴場用	2,645	1.2	2,624	1.4	21	0.8	4
特別計量	0	0.0	0	0.0	0	—	0
臨時用	379	0.2	542	0.3	△ 163	△ 30.1	47

本年度の業務実績の概要は上記のとおりである。

これまで同様、人口減少に伴う給水人口の減が継続している。給水人口は昨年度と比較し335人(5.0%)減少し、6,334人となった。

しかしながら、これも昨年同様に給水人口の減少に反し総配水量が増加(1.6%)し、有収水量率の悪化が進んでいる

営業収益は、前年度比較で17.1%の増加となっているが、この要因として、昨年度、新型コロナウイルス感染症対策として水道使用料基本料金免除を実施したことによる水道使用料の減が、今年度元に戻ったことが大きい。

収益については、今後も人口減少に伴い、減少されることが推測される。

当年度純損失については、前年度比において改善はしたものの、慢性的に単年度欠損が生じる会計運営となっている。

2. 予算の執行状況(決算報告書)

(1) 収益的収支(税込み)

ア. 収 入

(単位：円、%)

科目	当初予算額	補正額	最終予算額	決算額	予算額に比べ 決算額の増減	収入率
営業収益	220,643,000	537,000	221,180,000	235,249,647	14,069,647	106.4
営業外収益	169,730,000	0	169,730,000	171,183,562	1,453,562	100.9
特別利益	1,882,000	0	1,882,000	1,882,545	545	100.0
合 計	392,255,000	537,000	392,792,000	408,315,754	15,523,754	104.0

[収入の主なもの]

営業収益	給水収益(水道料及び量水器使用料)	239,923,633
	その他(設計審査手数料等)	1,325,984
営業外収益	他会計補助金(一般会計からの補助金)	96,291,288
	長期前受金戻入(補助金等を減価償却見合い分に収益化)	70,462,254

イ. 支 出

(単位：円、%)

科目	当初予算額	補正額、流用額、 予備費充用額	最終予算額	決算額	執行残	執行残率
営業費用	474,958,000	△ 15,593,000	459,365,000	432,456,421	26,908,579	5.9
営業外費用	27,058,000	4,677,000	31,735,000	21,156,061	10,578,939	33.3
予備費	1,000,000	0	1,000,000	0	1,000,000	100.0
特別損失	0	0	0	0	0	-
合 計	503,016,000	△ 10,916,000	492,100,000	453,612,482	38,487,518	7.8

[支出の主なもの]

営業費用	原水及び浄水費(水を作る費用)	14,217,126
	配水及び給水費(水を配る費用)	18,890,656
	総係費(事業運営に係わる費用)	158,641,783
	減価償却費	234,480,347
	資産減耗費	6,226,509
営業外費用	企業債償還金利子	13,833,393

(2) 資本的収支（税込み）

ア. 収 入

（単位：円、％）

科目	当初予算額	補正額	繰越額	最終予算額	決算額	増 減	収入率
企業債	5,300,000			5,300,000	1,500,000	△ 3,800,000	28
他会計補助金	1,883,000			1,883,000	1,883,032	32	100
国庫補助金	0			0	0	0	-
合 計	7,183,000	0	0	7,183,000	3,383,032	△ 3,799,968	47

〔収入の主なもの〕

企業債	建設改良債	1,500,000
他会計補助金	一般会計補助金	1,883,032

イ. 支 出

（単位：円、％）

科目	当初予算額	補正額	繰越額	最終予算額	決算額	執行残	執行残率
建設改良費	25,002,000	18,800,000	0	43,802,000	35,433,090	8,368,910	19.1
企業債償還金	114,202,000	0	0	114,202,000	114,201,560	440	0.0
合 計	139,204,000	18,800,000	0	158,004,000	149,634,650	8,369,350	5.3

〔支出の主なもの〕

建設改良費	配水施設整備事業	1,540,000
	メーター更新事業	33,893,090
企業債償還金		114,201,560

資本的収支の不足額	146, 251, 618	左の補てん財源内訳	
		消費税資本的収支調整額	3, 146, 217
		当年度損益勘定留保資金	143, 105, 401

(3) 総収支及び資金過不足の状況

ア. 収益的収支	△ 45,296,728
イ. 資本的収支	△ 146,251,618
ウ. 総収支	△ 191,548,346
エ. 留保財源	168,437,030
オ. 貯蔵品消費税	0
カ. 特別修繕引当金	5,000,000
キ. 単年度資金過不足額	△ 18,111,316
ク. 前年度累積資金過不足額	398,665,289
ケ. 今年度累積資金過不足額	380,533,973

３．経営成績（損益計算書）

（単位：円、％）

区 分	令和5年度	令和4年度	比 較	対前年度の比較率	
				令和5年度	平成4年度
損 益 (1)－(2)	△ 50,739,931	△ 54,091,269	3,351,338	6.2	48.8
(1)収益	387,065,095	403,244,369	△ 16,179,274	△ 4.0	3.0
7. 水道料、量水器使用料	212,657,915	181,702,317	30,955,598	17.0	△ 19.1
イ. その他	174,407,180	221,542,052	△ 47,134,872	△ 21.3	32.7
(2)費用	437,805,026	457,335,638	△ 19,530,612	△ 4.3	△ 8.0
7. 原水及び浄水費	8,405,465	13,366,190	△ 4,960,725	△ 37.1	△ 37.0
イ. 配水及び給水費	17,019,279	16,295,419	723,860	4.4	△ 8.8
ウ. 総係費	136,887,639	136,629,182	258,457	0.2	△ 13.2
エ. 人件費	13,852,069	18,123,345	△ 4,271,276	△ 23.6	2.6
小 計	176,164,452	184,414,136	△ 8,249,684	△ 4.5	13.9
オ. 起債償還等利子	13,833,393	15,328,474	△ 1,495,081	△ 9.8	△ 8.3
カ. 特別損失	0	0	0	－	－
キ. 災害復旧費	0	0	0	－	－
ク. 資産減耗費	6,226,509	2,771,480	3,455,029	124.7	651.5
ケ. 減価償却費	234,480,347	242,034,280	△ 7,553,933	△ 3.1	△ 1.4
コ. 繰延勘定償却費	0	0	0	－	－
サ. 雑支出	7,100,325	12,787,268	△ 5,686,943	△ 44.5	△ 31.5
※参考～内部留保資金	173,437,030	171,510,623	1,926,407	1.1	3.3

本年度の経営成績（損益計算書）の損益及び収支内訳については上記のとおりである。

収益について、水道使用料等が約31,000千円増加している要因は、昨年度実施した新型コロナウイルス感染症対策事業に基づく水道使用料基本料金免除が今年度もとに戻ったものであり、その分、他会計補助金が大幅に減少していることから、収益全体としては、前年比4.0%の減収となっている。

総収支比率（総収益÷総費用）は88.4%であり、経常費用が経常収益で賄われたい状態が継続しており、業務委託の見直し等費用の削減に努めていることは認められるものの更なる改善が求められる。

今後についても人口減少のため水道使用料の減少が見込まれるのは避けられないため、長期的視点から収益の確保と費用の圧縮が必要である。

[増減の主なもの]

(単位:円)

区 分			令和5年度決算	令和4年度決算	増 減	増減理由
純利益(△は純損失)			△ 50,739,931	△ 54,091,269	3,351,338	
増減の主な 要因	営 業 益	給水、計量器使用料	212,657,915	181,702,317	30,955,598	昨年度、新型コロナウイルス感染症対策で水道使用料の基本料金を免除したことによる収益の減であったため今年度との比較で増となった。
	営 業 外 益	他会計補助金 (一般会計繰入金)	96,291,288	134,167,566	△ 37,876,278	今年度については基準内繰入金のためのため減少。 (昨年度については、コロナ関連の交付金繰入金があった。)
		他会計負担金 (下水道会計より負担金)	3,499,529	4,547,864	△ 1,048,335	対象経費減少による減
	営 業 用 費	修繕費 (1) (原水及び浄水費)	278,000	3,266,000	△ 2,988,000	前年度は建屋修繕を実施したもの
		修繕費 (2) (配水及び給水費)	13,550,970	12,014,500	1,536,470	配水管等修繕工事の増
		委託料 (1) (施設運転維持管理)	124,611,542	119,072,203	5,539,339	施設運転維持管理の他、管理及び修繕等の経費の増
		委託料 (2) (施設運転維持管理除く)	12,606,440	19,684,040	△ 7,077,600	汚泥処理委託料の減 マッピングシステム保守など委託料の減少
		給料・手当 (報酬含む) (費用全体)	8,036,769	13,973,511	△ 5,936,742	人事異動に伴う当該会計の人件費の減
		法定福利費 (費用全体)	2,138,400	2,834,834	△ 696,434	同上
		賃借料	4,078,218	4,055,352	22,866	財務会計賃借料の微増
		資産減耗費	6,226,509	2,771,480	3,455,029	配水管、水道メーターの更新に係わる資産減耗費の増
		減価償却費	234,480,347	242,034,280	△ 7,553,933	当年度償却分増加額の減
	営 業 外 費	支払利息 (企業債償還利子)	13,833,393	15,328,474	△ 1,495,081	企業債に係わる利息分の減少
		雑支出	7,100,325	12,787,268	△ 5,686,943	前年度、新型コロナウイルス感染症対策で水道使用料基本料金を免除したことにより他会計補助金が増額に対し、今年度通常の他会計補助金分との対比に係わる3条特定収入税額の減

4. 財政状態（貸借対照表）

ア. 資産及び総資本

（単位：円、％）

科 目	令和5年度末現在高	令和4年度末現在高	比 較	左の率
資 産	4,647,110,903	4,825,404,815	△ 178,293,912	△ 3.7
固定資産	4,158,255,234	4,366,750,190	△ 208,494,956	△ 4.8
流動資産	488,855,669	458,654,625	30,201,044	6.6
内現金預金	413,459,708	409,225,944	4,233,764	1.0
繰延勘定	0	0	0	－
総資本 a + b	4,647,110,903	4,825,404,815	△ 178,293,912	△ 3.7
固定負債	1,509,699,628	1,612,543,206	△ 102,843,578	△ 6.4
流動負債	220,083,449	174,332,085	45,751,364	26.2
繰延収益	1,222,544,606	1,293,006,373	△ 70,461,767	△ 5.4
計 a	2,952,327,683	3,079,881,664	△ 127,553,981	△ 4.1
資本金	1,535,039,153	1,535,039,153	0	0.0
剰余金	159,744,067	210,483,998	△ 50,739,931	△ 24.1
計 b	1,694,783,220	1,745,523,151	△ 50,739,931	△ 2.9

〔増減の主なもの〕

※上記科目の比較分析

固定資産	有形固定資産	32,211,900
	除却（減価償却前）	△ 13,716,800
	減価償却	△ 226,990,056
	建設仮勘定	0
流動資産	現金預金	4,233,764
	未収金	25,967,280
固定負債	企業債（翌年度償還分除く）	△ 107,843,578
	引当金	5,000,000
繰延収益	繰延収益	△ 70,461,767
流動負債	企業債（翌年度償還分）	△ 4,857,982
	未払金	48,341,360
剰余金	利益剰余金	△ 50,739,931

本年度の財政状態を示す資産、資本についての貸借対照表は上記のとおりである。

未収金、未払金が増加しているが以下に理由を記す。

まず、未収金増加の理由は、本市における水道料金徴収は2カ月毎のため決算上未収金が発生する構造となっているが、令和4年度においては臨時交付金による基本料3カ月免除を実施したことにより未収金が減少、令和5年度では免除を実施しなかったため、見かけ上前年度より未収金が増加となったもの。

未払い金の増加の要因としては、PFI事業に係る請求が年度末に集中したことによる一部次年度への支払い繰延べである。

また、剰余金については、事業年度欠損を生じていることから、利益積立金で補てんしたことから減少しているが、長期的に財務上の安全性を確保するためには、事業年度で欠損を生じない様、収益性の向上を図ることが求められる。

イ. 資産の構成

(単位:円)

資産の部			総資本（負債+資本）の部				
固 定 資 産	土地	11, 521, 080	0. 2%	資 本	自己資本金	1, 535, 039, 153	33. 1%
	建物	820, 817, 808	17. 7%		受贈財産	409, 103	0. 0%
	構築物	2, 392, 177, 658	51. 5%		補助金等	850, 028	0. 0%
	機械、装置	930, 461, 696	20. 0%		工事負担金	0	0. 0%
	車両及び工具等 （無形固定資産含 む。 ⇒283, 120）	3, 276, 992	0. 1%		利益剰余金	158, 484, 936	3. 4%
	建設仮勘定	0	0. 0%				
	計	4, 158, 255, 234	89. 5%		計	1, 694, 783, 220	36. 5%
	流動資産等		488, 855, 669		10. 5%	負債	2, 952, 327, 683
合 計		4, 647, 110, 903	100. 0%	合 計		4, 647, 110, 903	100. 0%

令和5年度事業実績調

区分	単位	数				値		前年度との比較 増減(R5-R4)	算式	該当数値
		令和5年度	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和3年度	令和2年度			
総人口	人	6,363	6,698	6,959	7,302	6,959	7,302	△ 335		
計画給水人口	人	6,809	10,750	10,750	10,750	10,750	10,750	△ 3,941	R5変更10,750⇒6,809	
給水人口	人	6,334	6,669	6,929	7,264	6,929	7,264	△ 335		
計画給水利用率	%	93.0	62.0	64.5	67.6	64.5	67.6	30.9	給水人口÷計画給水人口	
普及率	%	99.5	99.6	99.6	99.5	99.6	99.5	0.0	給水人口÷総人口	
総配水量	m ³	1,083,994	1,067,380	1,064,244	1,022,485	1,064,244	1,022,485	16,614		
有効水量	m ³	891,326	918,926	881,578	868,312	881,578	868,312	△ 27,600		
有収水量	m ³	622,431	629,116	654,512	679,957	654,512	679,957	△ 6,685		
無収水量	m ³	268,895	289,810	227,066	188,355	227,066	188,355	△ 20,915		
無効水量	m ³	192,668	148,454	182,666	154,173	182,666	154,173	44,214		
有収率	%	57.4	58.9	61.5	66.5	61.5	66.5	△ 1.5	有収水量÷総配水量	
計画配水量	m ³	6,589	7,430	7,430	7,430	7,430	7,430	△ 841	R5変更7,430⇒6,589	
一日平均配水量	m ³	2,970	2,924	2,916	2,801	2,916	2,801	46	総配水量÷365日	
一日平均給水量	m ³	1,705	1,724	1,793	1,863	1,793	1,863	△ 18	有収水量÷365日	
給水件数	件	3,605	3,755	3,844	4,025	3,844	4,025	△ 150		
負荷率	%	60.5	59.7	53.2	50.3	53.2	50.3	0.8	一日平均配水量÷一日最大配水量(3/15)	4,906 m ³
施設利用率	%	41.2	40.6	40.5	38.9	40.5	38.9	0.6	一日平均配水量÷一日配水能力	7,200 m ³
最大稼働率	%	68.1	68.1	76.2	77.3	76.2	77.3	0.0	一日最大配水量÷一日配水能力	
職員1人当り										
給水量	m ³	311,216	314,558	327,256	339,979	327,256	339,979	△ 3,343	有収水量÷2人(H28まで3人)	622,431 m ³
給水収益	円	106,328,958	90,851,159	112,259,431	108,051,796	112,259,431	108,051,796	15,477,799	給水収益÷2人(H28まで3人)	212,657,915 円
有収水量1m ³ 当り										
総収益	円	621.86	640.97	598.07	625.53	598.07	625.53	△ 19.11	総収益÷有収水量	387,065,095 円
総費用	円	703.38	726.95	759.57	722.85	759.57	722.85	△ 23.57	総費用÷有収水量	437,805,026 円
供給単価	円	341.66	288.82	343.03	317.82	343.03	317.82	52.84	給水収益÷有収水量	212,657,915 円
給水原価	円	590.17	605.27	639.57	606.70	639.57	606.70	△ 15.10	(経常費用-受託工事費-長期前受)÷有収水量	367,342,772 円
資本費	円	285.74	287.41	284.40	280.16	284.40	280.16	△ 1.67	(減価償却費長期前除+起債利子災害過疎除)÷有収水量	177,851,474 円

経 営 分 析 表

(単位: %)

		比 較			算 式	説 明
		類似市 との比較 (※1) 【左記該当 事項分の み】	R5年度	R4年度		
構 成 比 率	固定資産 構成比率	88.3	89.5	90.5	$\frac{\text{固定資産} + \text{繰延勘定}}{\text{総資産}} \times 100$	総資産のうち、固定資産が占める割合。 これが大きいほど資本が固定化されるため、 小さい方が望ましい。
	流動資産 構成比率	-	10.5	9.5	$\frac{\text{流動資産}}{\text{総資産}} \times 100$	総資産のうち、流動資産が占める割合。これ が大きいほど流動性があるため良好となる。 なお、上記の比率との合計は100となる。
	固定負債 構成比率	29.7	32.5	33.4	$\frac{\text{固定負債}}{\text{総資本}} \times 100$	総資本のうち、長期負債が占める割合。 比率は小さいほど良い。
	流動負債 構成比率	-	4.7	3.6	$\frac{\text{流動負債}}{\text{総資本}} \times 100$	総資本のうち、短期負債が占める割合。 比率は小さいほど良い。
	自己資本 構成比率	66.2	62.8	63.0	$\frac{\text{自己資本}}{\text{総資本}} \times 100$	総資本のうち、自己資本が占める割合。この 比率が大きいほど良い。
財 政 比 率	流動比率	284.3	222.1	263.1	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$	流動資産が流動負債より大きいほど支払能力 がある。 比率は大きいほど良い。
	当座比率	268.2	222.1	263.1	$\frac{\text{現金預金} + \text{未収金}}{\text{流動負債}} \times 100$	短期的な支払能力の大きさを表す。 比率は大きいほど良い。
	現金預金 比 率	-	187.9	234.7	$\frac{\text{現金預金}}{\text{流動負債}} \times 100$	流動負債に対する現金預金の割合。 比率は大きいほど良い。
財 政 比 率	負債比率	-	59.3	58.8	$\frac{\text{負 債}}{\text{自己資本}} \times 100$	負債が自己資本に対し、低く抑えられることが 健全化につながる。 比率は小さいほど良い。
	固定比率	133.3	142.5	143.7	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資本}} \times 100$	自己資本による固定資産調達割合。 比率は小さいほど良い。
	固定資産 対長期 資本比率	92.1	93.9	93.9	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資本} + \text{固定負債}} \times 100$	固定資産の調達に流動負債も負担していな いかを示す比率。 100%以下が望ましい。
収 益 率	総 収 支 比 率	101.2	88.4	88.2	$\frac{\text{総収益}}{\text{総費用}} \times 100$	費用に対する収益の効率性を示す。 通常、比率は大きいほど良い。
	営業収支 比 率	65.0	51.3	42.6	$\frac{\text{営業収益} - \text{受託工事収益}}{\text{営業費用} - \text{受託工事費}} \times 100$	営業活動の能率を示す。 通常、比率は大きいほど良い。

(注 記)

(※1) 令和4年度総務省経営分析表との比較

※総 資 産 = 固定資産 + 流動資産 + 繰延勘定

※固定負債 = 貸借対照表の固定負債 + 借入資本金

※総 資 本 = 負債 + 資本

※自己資本 = 自己資本金 + 剰余金 + 繰延収益

※負 債 = 固定負債 + 流動負債 + 借入資本金

5. まとめ

令和5年度夕張市水道事業会計の決算審査を行ったうえで意見を次のとおり述べる。

令和5年度決算は、前年度と比較し若干の圧縮はあったものの、純損失を計上する結果となった。総収益が総支出を下回るため総収支比率も100%未満となる。

料金回収率（供給単価÷給水原価×100）は57.9%であり、給水にかかる費用が給水収益では賄われていないことは従前どおりである。

有収率は57.4%と昨年より更に低下しており、この最大の要因と推測される老朽管による漏水について、経営改善に効果のある対策を実施していただきたい。

人口減少が進行する本市において、給水収益の経時的な減少は避けられないことから、収支改善のためにはそれ以上の経費削減が求められる。

前年度、前々年度との比較において営業費用が年々減少しており、給水原価が年次的に減少傾向であることから経費削減の努力は見えて取れるが、より一層の見直しを行わない限り、収支を大きく改善することは困難である。

山間部で給水区域の標高差が大きく南北に細長い非効率的な地域性、配管等老朽化した設備、収益に直結する人口の減少等課題が多い中で独立採算制の水道事業を継続していくことは大きな困難を伴うと承知しているが、他自治体の手法も参考にしこれを取り入れるなど、従来の管理手法もひとつひとつを見直したうえで、経営改善に向け最善を尽くして頂きたい。